

増補新装版

隔離の文学

ハンセン病療養所の自己表現史

荒井裕樹

Arai Yuki

ISBN978-4-907078-52-2 C0036
定価:3300円(本体 3000円+税)
46判/ソフトカバー/380頁

増補しました
永久保存版!!



閉ざされた世界の抑圧された人々が描きだす近現代日本——。
刻々と消えゆく、美しくも痛ましい作品に寄り添いつつ、
文学は生命の重みを描き得るのかを問う意欲作。
新資料から療養所の性的少数者への考察を加えた増補新装版。
書肆アルス

いのちの
生命の砦か 隔離の檻か

サントリー学芸賞作家の原点

祝
サントリー学芸賞!

写真: 黒崎 彰
装幀: 間村俊一
多摩全生園「柵」

◎ 著者について◎

あらい・ゆうき/一九八〇年東京都生まれ。二松學舎大学文学部教授。文筆家。専門は障害者文化論、日本近現代文学。東京大学大学院人文社会系研究科修了、博士(文学)。
二〇一一年、博論をまとめた本書により作家活動を開始。
『凜として灯る』(現代書館) 『生きていく絵—アートが人を(癒す)とき』(垂紀書房、ちくま文庫)、『障害者差別を問いなおす』(筑摩書房) 『車椅子の横に立つ人—障害から見つめる「生きにくさ」』(青土社)、『まとまらない言葉を生きる』(柏書房) 『感情の海を泳ぎ、言葉と出会う』(教育評論社) 『無意味なんかじゃない自分—ハンセン病作家・北條民雄を読む』など著書多数。
二〇二二年、第15回(池田品子記念) わたくし、つまり Nobody賞。二〇二五年、第47回サントリー学芸賞。

● 増補新装版*目次 ●

- 第一章 隔離する文学—「癩子防協会」と患者文学の諸相
- 第二章 「断種」を語る文学—ハンセン病患者の文学にみる優生思想(身振り)としての「作家」
- 第三章 —北條民雄の日記精読
- 第四章 癩の隠喩といのちの隠喩—北條民雄「いのちの初夜」と同時代
- 第五章 御歌と(救癩)—近代皇族の文学はいかに問い得るのか
- 第六章 「病友」なる支配
- 第七章 —小川正子『小島の春』試論
- 第八章 ハンセン病患者の戦争詩(前編)
- 第九章 —近くて遠い詔勅
- 第九章 ハンセン病患者の戦争詩(後編)
- 第九章 —「隔離の中の(大東亜)」
- 第九章 —「療養文芸」の季節
- 第十章 —(弱さ)の自画像
- 第十章 文学が描いた優生手術
- 第十一章 —ハンセン病患者は「断種」をいかに描いてきたか?
- 第十一章 著者—船城稔美論 **新収録**

ご注文は書肆アルスへ FAX⇒03-6659-8853

※本品は地方小出版流通センター取扱品です 新年1月5日(月)迄にご返信ください

<p>著者: 荒井裕樹 (あらい・ゆうき)</p> <p>増補新装版 隔離の文学</p> <p>ハンセン病療養所の自己表現史</p> <p>定価: 本体 3,000円 (税別) 46判並製</p> <p>ISBN978-4-907078-52-2 C0036</p>	<p>ご注文数</p> <p>冊</p>	<p>貴店印・番線印</p> <p>ご担当:</p> <p>様</p>
---	----------------------	-------------------------------------